

5 和戸教会 (わどきょうかい)

明治11年(1878)10月26日、県内で最初のキリスト教会として産声をあげました。明治5年(1872)、和戸村の小島九右衛門は横浜に出向き、翌年には同村の大工小菅幸之助も横浜に出かけました。明治7年(1874)、小島は病にかかり医師ヘボン博士の診療を受けたのを契機として、同8年宣教師ゼームス・バラより洗礼を受けました。小菅も翌年授洗し、その後、両名とも帰郷し小島の自邸に教会を設立しました。なお、医師ヘボン博士はヘボン式ローマ字で著名な人物です。明治15年、現在の和戸交差点付近に初代の教会堂を新設し、その後移転しました。初代和戸教会のステンドグラスは郷土資料館に展示されています。



西方院



和戸教会

7 長福寺 (ちょうふくじ)

曹洞宗の寺で、かつては白岡市の興善寺(こうぜんじ)の末寺でした。山号は桃源山と称し、本尊は正観音を祀っています。江戸時代明和元年(1764)の創建であると伝わっています。本堂裏手の歴代住職の墓石群の中には、寺の創立以前の宝篋印塔(ほうきょういんとう)があります。



8 真蔵院 (しんぞういん)

新義真言宗智山派の寺で医王山大福寺と号する真蔵院は、仁治年中(1240~43)の草創と伝えられる「身代り薬師」という薬師如来を祀ったお堂があります。仁王門は町内唯一のもので江戸時代中頃の建造と推定されています。



仁王像



仁王門

6 高野の渡し (たかののわたり)

武蔵と下総の国境にあった高野の渡し。古利根川の下高野付近の別称である高野川の渡しや橋は、鎌倉街道中道が通っていたことから、交通の要所であったとされています。

鎌倉街道 Picup!

東条原から須賀にかけて、鎌倉街道が残っています。特に東条原地区には南端と北端にクランクなども残り、鎌倉・室町時代の集落(宿場)の様子がわかります。「市場之祭文」という古文書によると、東条原と須賀には市場がたっていたようです。東条原では鷲宮神社前、須賀では真蔵院前がその推定地です。東条原には宿屋敷、須賀には宿の地名も残ります。徳川家康は、関ヶ原の戦いの前哨戦である会津の上杉氏を討つため、小山城へ向かいました。その途中、須賀で休息したと伝わります。その場所は権現台とよばれ、明治時代まで東照社が祀られていました。なお、東条原では2か所で発掘作業が行われ、鎌倉街道と推定される道路状遺構や集落の跡が発掘されています。



鎌倉街道

9 身代神社 (このしろじんじや)

須賀村の鎮守であったことから、昭和30年(1955)の百間村との合併の際、身代の『代』をとり現町名の一部としました。祭神は素戔鳴尊(すさのおのみこと)を主神とし、他16柱の神々を合わせて祀っています。再興は天和2年(1682)。境内には江戸時代の庚申塔50基余りがあります。拝殿に向かって左側にある身代池には、「おいてけ堀伝説」が伝わっています。



日本工業大学まで
徒歩5分

地図はこの辺りです

